

令和8年9月17日(木)

ごみ収集パイプライン利用者の会 委員各位
自治会会長 管理組合理事長 各位
芦屋浜自治連合会 顧問 各位

ごみ収集パイプライン利用者の会
委員長 山口 能成

第 109回 ごみ収集パイプライン利用者の会 開催のご連絡

平素より、ごみ収集パイプライン利用者の会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

長雨が続く中、一部でパイプラインが停止しており、今後の状況を心配しております。また、インフルエンザ等も流行しておりますので、皆さまには体調管理に十分ご留意ください。

今回の利用者の会では、まず現在のパイプラインの停止状況について情報を共有します。

次に、現在実施されている「パイプライン代替収集の実証実験(モニター)」について、高層住宅・中層住宅・タウンハウス・戸建住宅それぞれの実施状況や、実際に運用して分かってきた課題などをご報告します。

また、後半では、家庭ですぐに実践できる**「生ごみ減量ワークショップ」**を開催します。生ごみを少しでも減らすために家庭で何ができるのか、参加者の皆さんと身近な工夫やアイデアを出し合いたいと考えています。

引き続き、安全で安定したパイプラインの運転と適切なごみ処理のため、ごみ出しルールとマナーの遵守にご協力をお願いいたします。

記

■ 日時

令和 8 年9月24日(木)19:30～20:30(予定)

■ 場所

芦屋浜センタービル 3 階 小会議室

■ 予定議題

1. パイプライン停止状況の説明
2. 実証実験(モニター)の実施状況報告
 - ・高層住宅
 - ・中層住宅
 - ・タウンハウス
 - ・戸建住宅実施により明らかになった課題等
3. 生ごみ減量ワークショップ
 - ・家庭でできる生ごみ減量の工夫
 - ・参加者による意見交換
4. その他

今後の予定：第110回利用者の会：10月29日(木) 19:30～20:30

以上



今月のポイント

1. パイプラインの停止状況

長雨による雨水侵入やごみの堆積、さらに代替収集の実証実験により、一部の地区・投入口でパイプラインが停止しています。

9月16日現在、陽光町・海洋町・南浜町は運転中ですが、浜風町、新浜町、高浜町、若葉町、緑町、潮見町では一部の投入口が停止しています。

今後も停止状況を利用者に分かりやすく伝えるとともに、停止時の代替収集を円滑に行うことが重要です。

2. パイプライン代替収集の実証実験

8月15日から代替収集の実証実験が始まりました。実際に利用することで、事前には分からなかった良い点と改善すべき点が見えてきました。

【良かった点】

ごみの大きな散乱や著しい液だれ、カラスによる被害などは、現時点では大きな問題になっていません。また、24時間ごみを出せることを評価する利用者の意見もあります。高層住宅のごみカート方式では、14台分の収集に約10分に対応でき、収集作業員からも作業性を評価する意見がありました。

【今後の検討課題】

戸建住宅では、金属ボックスの光の反射、夏場の熱さ、虫の発生、清掃方法などが課題として挙がっています。第2弾では塗装やカート内蔵方式による改善が期待されています。高層住宅では、ルーバーとカートの干渉、蓋の開けにくさ、金網ドアの操作性、景観、出入口の位置によるカート利用の偏りなど、設備の使いやすさについて改善すべき点が確認されています。

実証実験で大切なのは、問題が出ないことではありません。

実際に使う → 問題を見つける → 改善する → もう一度確認する

この繰り返しによって、将来のより良い収集方法につなげることが実証実験の目的です。

今後は、①利用者の使いやすさ、②管理する側の負担、③収集作業のしやすさ、④景観・衛生など周辺環境への影響という共通の視点から各方式を比較していくことが重要です。

3. 生ごみ減量ワークショップ

今回のワークショップでは、家庭でできる生ごみ減量について、皆さんの経験やアイデアを出し合います。

目的は「正しい答え」を一つ決めることではありません。「私はこんな工夫をしている」「これなら私にもできそう」という知恵を持ち寄り、お互いに学ぶことです。

今回は2人程度のグループで、現在実践していること、これからやってみたいことをカードに書き、似たアイデアをまとめて「みんなの知恵マップ」を作ります。

今回の会議で共有したいこと

1. パイプラインの現状を知る。
2. 代替収集を実際に使って問題を見つけ、改善する。
3. そして、自分たちが出すごみを少しでも減らす。

この3つを、行政だけの問題ではなく、利用者・地域・行政が一緒に考えていくことが、今回の利用者の会の大きなテーマです。

第 108 回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

日時	2026年7月30日 19:30～20:35
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者(敬称略)	ごみ収集パイプライン利用者の会 長尾・大山(アステム D 棟)、友田・下木(アステム C 棟)、森(芦屋浜第1住宅)、田村(浜風町第3街区)、保田(浜風町第4住宅)、北中(浜風町第5住宅)、谷野・末友(新浜町住宅)、三浦・池西・小谷(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、山口(アステム A・B 棟)、井上・中村(芦屋浜第2住宅)、小林(緑第西区)、池田(緑第二住宅)、西川(緑第四住宅)、向井(潮見第二住宅)、春木(南浜1街区)、寺前(市議)、川島(市議) 芦屋市環境施設課 尾川・畑・林 合計26名
議題	1. 芦屋市環境施設課 尾川課長による説明 現在のパイプラインの運転状況について 実証実験の概要と今後の予定 2. 生ごみ減量への取り組み

テーマ 1 パイプライン運転停止の現状と復旧状況

【説明】

芦屋市環境施設課より、現在のパイプライン運転停止の原因と復旧作業の状況について説明が行われた。

令和 8 年 6 月 25 日から 26 日にかけて約 157mm の集中豪雨が発生し、芦屋浜全体の地下水位が急激に上昇した。その結果、老朽化した配管や地下ピットの隙間から大量の地下水が管路内へ浸入し、ごみと水が混ざることで重量が増加し、通常の吸引運転ができなくなった。

このため、市では配管の閉塞を防止するため、早朝の自動運転を停止し、職員が毎日排水ポンプによる排水作業を継続している。しかし、翌日には再び地下水が流入し満水状態となるため、全面復旧には至っていない状況である。

現在は臨時収集(月～土の週 6 回)に切り替えて対応しており、一部地域では地下水位の低下により試験運転が始まっている。アステム A・B 棟、若葉町などでは復旧の見込みが立ち始めているが、西側地域では依然として厳しい状況が続いている。

市からは、「今後も地下水位が十分に下がるまで排水作業を継続し、順次通常運転へ復旧させる」との説明があった。

【Q&A】

Q1 今回はごみ詰まりではなく、水だけが原因なのか。

A 今回は配管内への地下水の流入が主な原因であり、ごみ詰まりではない。早朝運転を停止したことで、ごみと水が混ざって閉塞することは防止できている。

Q2 今回の対応にはどの程度の費用がかかっているのか。

A 現在の臨時収集には約 1 日 10 万円の費用がかかっている。現時点では高圧洗浄車などによる閉塞除去作業は必要なく、それらの高額な費用は発生していない。

Q3 青ランプになった場合は、ごみを投入してよいのか。

A 青ランプは試験運転中の場合があるため、市から正式に「復旧」の案内があるまでは投入しないようお願いしたい。

Q4 今回のような豪雨が今後も発生すると、同様の停止が起こる可能性はあるのか。

A 地下水位が大きく上昇する豪雨では、同様の現象が発生する可能性がある。老朽化した配管の補修を進めながら対応していく。

【結論】

- ・運転停止の原因は地下水の大量流入であり、ごみ詰まりではない。
- ・全面復旧まで引き続き排水作業を継続する。
- ・復旧は地域ごとに順次進める。
- ・利用者は市から正式な復旧連絡があるまでパイプラインを使用しない。
- ・復旧時期については地下水位の低下状況に左右されるため現時点では未定であるが、住民への情報提供については、より分かりやすい方法を検討していくこととなった。

【NEXT ACTION】

- ・ 地下水排水作業の継続
- ・ 復旧可能地域から順次通常運転へ移行
- ・ 復旧状況をホームページ・掲示等で周知(芦屋市とのワーキンググループで検討)

テーマ 2 運転停止時の情報提供・住民への周知方法

【説明】

運転停止が 1 か月以上続く中、住民への情報提供のあり方について活発な意見交換が行われた。

参加者からは、「住民が最も知りたいのは復旧時期であり、現在どのような作業を行っているのかが十分伝わっていない」「市ホームページの内容が長期間更新されておらず、進捗状況が分かりにくい」との意見が出された。

また、「地下水が流入している写真や復旧作業の状況を公開すれば、住民も現状を理解しやすくなる」「復旧した地域については、ホームページだけでなく掲示板や管理組合、自治会などを通じて迅速に情報提供してほしい」との要望も出された。

市からは、ホームページや利用者の会への情報提供は行っているものの、住民への伝達方法については改善の余地があるとの認識が示され、今後情報発信の方法を見直す考えが示された。

【Q&A】

Q1 復旧時にはどのような方法で住民へ連絡するのか。

A ホームページへの掲載、利用者の会への連絡、ネット・コーンの撤去などにより周知しているが、さらに分かりやすい方法について検討する。

Q2 芦屋市ホームページなどで、輸送管内へ地下水が流入している写真や作業状況を公開した方が、住民に現状が伝わるのではないか。

A 参加者からは、「運転停止が長期間続いているため、住民は原因や復旧作業の状況を十分理解できていない。写真などを活用して分かりやすく情報発信すべき」との意見が出された。これに対し市は、「現在は停止情報や復旧状況をホームページ等で発信しているが、写真を含めた情報提供については今後検討したい」と回答した。

Q3 住民が一番知りたいのは「いつ復旧するのか」だが、復旧時期は分からないのか。

A 市からは、「復旧時期は地下水位がどの程度下がるかに左右されるため、現時点で明確な日程を示すことはできない」との説明があった。一方で、一部地域では試験運転が始まっており、復旧可能な地域から順次通常運転へ切り替えていく予定であるとの説明があった。

Q4 自治会・管理組合への情報伝達を強化できないか。

A 利用者の会や自治会との連携をさらに強化し、より確実な情報共有方法を検討する。

【結論】

- ・住民への情報提供は改善が必要であるとの認識を共有した。
- ・ホームページだけでなく、掲示板や自治会・管理組合など複数の媒体を活用した情報発信を検討する。
- ・復旧状況が分かる情報を継続的に発信する。

【NEXT ACTION】

- ・ 情報発信方法の見直し
- ・ 復旧状況の定期的な更新
- ・ 管理組合・自治会との情報共有体制の強化
- ・ 利用者の会ワーキンググループで情報伝達方法を整理する

テーマ 3 パイプライン代替収集方法の実証実験

【説明】

芦屋市から、パイプライン設備は老朽化に伴い、条例により使用期限が定められていることが改めて説明された。芦屋浜地区は令和 20 年度、南芦屋浜地区は令和 32 年度を目途にパイプラインの運用を終了する予定であり、その後のごみ収集方法を早期に決定する必要がある。

市では、これまで利用者の会やワーキンググループと協議を重ね、住宅形態(高層・中層・タウンハウス・戸建)の違いを考慮し、それぞれに適した収集方法を検討してきた。

その結果、令和 8 年 8 月 17 日から実証実験(モニター)を開始することとなった。

実証実験では、高層住宅(アステム A・B 棟)、中層住宅(ラ・ベール 2・3)、タウンハウス(浜風町 3)、戸建住宅(緑町)を対象に、それぞれ 3 種類の収集方法を約 1 か月ごとに切り替えながら試験運用を行う。

検証する方式は、

- 集合カート方式
- 金網ごみ庫+カート方式
- 金網ごみ庫方式
- 折りたたみネットカゴ方式
- 金属ボックス方式
- カート収納ボックス方式

などであり、実際の使い勝手、管理のしやすさ、景観、カラス対策、維持管理の負担などを総合的に評価する。

実証実験終了後はアンケートを実施し、利用者の意見を反映しながら、将来の標準的なごみ収集方法を決定する資料として活用することが説明された。

【Q&A】

Q1 なぜ住宅形態ごとに異なる収集方法を試すのか。

A 高層住宅、中層住宅、タウンハウス、戸建住宅では、ごみ排出量や利用環境が大きく異なるため、それぞれに最適な収集方法を選定する必要がある。

Q2 実証実験はどのように評価するのか。

A 利用者アンケートを実施し、使いやすさ、清掃の負担、景観、安全性、カラス対策などを総合的に評価する。また、運営上の問題点も整理し、改善できるものは改善していく。

Q3 収集回数はどのようになるのか。

A 実証実験では「週 3 回(月・水・金)の収集」を予定している。収集場所や必要容量を考慮すると、現時点では週 3 回が最も現実的であると説明された。

Q4 高層住宅ではごみの量が多いが、週 3 回の収集で対応できるのか。

A まずは実証実験で実際の排出量を確認する。収集能力や運営方法に課題があれば改善し、将来の収集方法へ反映させる。

Q5 収集後の臭いや清掃はどのように考えているのか。

A 基本的には午前中の収集を予定している。カート等の簡単な水洗いなど一定の維持管理は必要となるが、その負担も実証実験の評価項目として検証する。

Q6 30～50cm の「その他燃やすごみ」はどうなるのか。

A 金属ボックスやネット方式などでは通常の可燃ごみと一緒に排出できるため、現在のような月 1 回の「その他燃やすごみ」の収集は不要となる。ただし、カート収納ボックス方式では投入口の大きさによる制約があるため、今後詳細を確認していく。

Q7 他都市での導入事例も参考にできないか。

A 西宮市や神戸市などで導入されている事例も参考にしながら、実際の運用状況を確認し、芦屋浜に最も適した方式を検討していく。

【結論】

- ・令和 8 年 8 月 17 日から住宅形態別の実証実験を開始する。
- ・実際の運用結果と利用者アンケートを基に、将来の標準的な収集方法を決定する。
- ・景観、安全性、維持管理、利便性などを総合的に評価する。

【NEXT ACTION】

- ・ 8 月 17 日から各地区で実証実験を開始する。
- ・ 各方式の問題点・改善点を記録する。
- ・ 利用者アンケートを実施する。
- ・ 実証結果をワーキンググループで分析し、今後の収集方式に反映する。

テーマ 4 生ごみ減量実験(家庭用生ごみ処理機)

【説明】

利用者の会から、家庭から排出される生ごみを減らすための取組として、家庭用生ごみ処理機を実際に 1 か月間使用した結果が報告された。

使用した機器は、市販されている比較的安価な温風乾燥式生ごみ処理機(約 2 万円)である。

実験では、コーヒーかすや茶殻など日常の生ごみを処理した結果、生ごみ重量は約 45% 減少した。また、運転時間は約 8 時間、電気代は 1 回約 31 円であった。

芦屋市の家庭ごみ排出量は 1 人 1 日約 886g であり、この処理機を利用することで家庭全体のごみ量を約 23% 削減できる可能性があることが紹介された。

さらに、使用した感想として、

- ・ 運転音はほとんど気にならない。

- ・ 活性炭フィルターにより臭いもほとんど感じない。
- ・ 家庭でも十分実用的に使用できる。

との報告があった。

次回(9月)の利用者の会では、生ごみ減量をテーマにワークショップを開催し、参加者同士で実践事例や新たなアイデアを共有する予定である。

【Q&A】

Q1 実際にどの程度ごみは減ったのか。

A 約1か月の実験では、生ごみ重量は約45%減少し、家庭全体のごみ量では約23%削減できる結果となった。

Q2 電気代や運転音は気にならないのか。

A 1回約8時間運転して電気代は約31円程度であり、運転音や臭いもほとんど気にならなかった。

Q3 芦屋市では購入補助制度はあるのか。

A 現在、芦屋市には補助制度はないが、他自治体では購入費の半額補助を実施している例もあることが紹介された。

Q4 次回はどのような内容を予定しているのか。

A 参加者同士が生ごみ減量の工夫や実践例を持ち寄り、意見交換を行うワークショップを開催する予定である。

【結論】

- ・家庭用生ごみ処理機は、ごみ減量に一定の効果があることが確認された。
- ・家庭から排出される生ごみ削減は、ごみ全体の減量にも大きく貢献する。
- ・今後は住民同士が実践例を共有しながら、生ごみ減量を地域全体へ広げていく。

【NEXT ACTION】

- ・ 9月24日の利用者の会で生ごみ減量ワークショップを開催する。
- ・ 参加者が実践している取組や新たなアイデアを共有する。
- ・ 家庭で実践可能な減量方法を整理し、住民への普及を進める。
- ・ 生ごみ減量によるごみ排出量削減効果を継続して検証する。

以上

1. パイプライン停止状況の説明

現在長雨及び実証実験によりパイプラインが停止している地区があります。具体的のは以下の通りです。

9月16日現在

町名	状況		復旧予定	備考
浜風町	△	停止	一部運転	雨水侵入
新浜町	△	停止	一部運転	実証実験
高浜町	△	停止	一部運転	ごみ堆積
若葉町	△	停止	一部運転	実証実験
緑町	△	停止	一部運転	実証実験
潮見町	△	停止	一部運転	雨水侵入
陽光町	○	運転中	—	—
海洋町	○	運転中	—	—
南浜町	○	運転中	—	—
環境処理センター	—	—	—	—

パイプラインの運転停止投入口

- ・ 浜風町(投入口:03021・03031・03032・03033・03041・03051・03052・03053・03054・03061)
- ・ 新浜町(投入口:03149・03159)
- ・ 若葉町(投入口:09019・09029)
- ・ 高浜町(投入口:05089)
- ・ 緑町 (投入口:11061・11062・11071・11081・11091・11101)
- ・ 潮見町(投入口:11063・11111)

パイプライン障害発生連絡

9月16日

項目	内容
発生日・時刻	2026年6月27日
連絡日	メール送信(予定): (第1報)2026年7月7日 16:00頃 (第2報)2026年7月31日 14:30頃 (第3報)2026年8月3日 18:00頃 (第4報)2026年8月6日 16:00頃 (第5報)2026年8月10日 13:00頃 (第6報)2026年8月14日 13:00頃 (第7報)2026年8月18日 15:30頃 (第8報)2026年8月20日 12:00頃 (第9報)2026年8月24日 13:30頃 (第10報)2026年9月2日 17:00頃 (第11報)2026年9月4日 12:00頃 (第12報)2026年9月8日 13:30頃 (第13報)2026年9月14日 15:00頃 (第14報)2026年9月16日 13:30頃
場所	若葉町一部、緑町一部、潮見町一部、高浜町4-2、新浜町一部、浜風町一部
影響投入口 番号	・運転一時停止箇所 計 23 箇所: 03021、03031、03032、03033、03041、03051、03052、03053、 03054、03061、03149、03159、05089、09019、09029、11061、11062、 11063、11071、11081、11091、11101、11111 ・運転再開箇所 計 55 箇所:(本日 7 箇所追加) 03071、03072、03081、03101、03111、03112、03113、03139、03149、 03159、04019、04029、04039、04049、05019、05029、05039、 05049、05089、05099、07019、08019、08029、08039、08049、 08059、08069、08079、10019、10029、11011、11031、11041、11051、 11129、11139、11149、12011、12021、12031、12032、12041、12051、 12061、12071、12081、12082、12091、12101、12102、12103、12111、 12121、12131、12141、12142、12143 ・近隣の投入口を利用いただく箇所 計 1 箇所: 11063(⇒12071 を利用ください)
障 害 内 容	パイプライン閉塞 ・ 機械の故障 ・ 内部浸水 ・ 工事等 ・ その他(モニター実 施) 詳細: ・雨水が管路に流入し、芦屋浜地区の大部分において収集運転が困難となっております。

	・パイプライン施設の代替収集方法についてモニター実施をしているため該当地域について運転を一時停止しております。 ・管内にごみ堆積により閉塞。詳細な内容については、調査依頼中。
原因	調査（済・☒継続中）・☒原因不明 ・具体的な内容(水位低下の後、大規模な雨水流入箇所がないか調査予定) ・写真：☐別添 ☒無
臨時収集	☐なし ☒期間 6月30日(火)～ 完了(まで・☒未定) 備考 ☒月～土(8:30収集)対応 ☐週3回(月・水・金 8:30収集)対応
復旧予定	☐未定 ☒管内部洗浄(投入口:05089) 対応時期(確定 月 日 ・ ☒未定※調整中) 備考 カメラ調査及び除去作業予定 ☒その他(対応内容: ポンプ排水作業) 対応時期(☒6月27日(土)から継続的に実施 確定 ・ 未定※調整中)
利用者の対応行動	☐一時的な各自ごみの保管 ☐ (他の)投入口へごみを投入ください。 ☒ その他(・臨時収集箇所へ朝 8:30 までにごみ出しをしてください。 ・モニター実施地域については代替収集施設にごみを出してください。)
注意事項	☒臨時収集です。投入口へ投入しないでください。 ☒近くの投入口をご利用ください。 (投入口 11063 については 12071 をそれぞれご利用ください。) ☒ その他(モニター実施地域については代替収集施設にごみを出してください。)

※影響範囲を別添に示します。

芦屋市
環境施設課

2. 実証実験(モニター)の実施状況報告

8月15日から、高層住宅において、ごみカートを使用したパイプライン代替収集の実証実験(モニター)がスタートしました。

実際に運用を開始したことで、事前の検討だけでは分からなかった良い点や問題点が確認されました。実証実験の目的は、単に新しい収集方法を体験するだけではなく、実際の生活の中で問題を発見し、改善したうえで、将来のより良い収集方法につなげることにありとを考えます。

そこで、現時点で確認された問題点と、その改善方法について以下のとおり提案します。

・ 戸建住宅・タウンハウス 金属ボックス設置

山口コメント

実際に金属ボックスを確認して、次のように感じました。

【良かった点】

- ・ 見た目がきれいで、清潔感があります。
- ・ ふたの取っ手は軽く、力をあまり必要としません。高齢者を含め、誰でも比較的簡単に開けて、ごみを入れることができます。
- ・ ふたを閉めているときは、ごみの臭いはほとんど外に漏れていません。
- ・ ごみがボックスの中に収まるため、カラスによる被害を防ぐ効果も期待できます。



【気になった点】

- ・ 晴れた日は金属部分に太陽の光が反射し、かなりまぶしく感じます。アンケートでも、車の運転時に光が反射して見づらいという意見がありました。表面を光沢の少ないものにするなど、改善を検討する必要があると思います。
- ・ 夏場は金属部分がかなり熱くなる可能性があります。利用者が触れる部分については、やけどをしないための対策が必要です。
- ・ ボックスの中に虫が発生したとの意見もあり、定期的な清掃が必要です。しかし、近くに水道がないため、「誰が、どのような方法で清掃するのか」をあらかじめ決めておく必要があります。
- ・ 清掃しやすくするため、ボックスの底に水を流すための排水口が必要かどうか検討した方がよいと思います。また、汚れや臭いを少なくするため、家庭で生ごみの水分を十分に切ってから出していただくことも重要です。



- ・ 収集作業では、ごみ袋を一袋ずつ人の手で取り出す必要があります。これまでの収集方法と比べて、収集作業にどの程度の時間と手間がかかるのかを、今回の実証実験で確認する必要があります。

総合コメント

今回の金属ボックス方式は、「開けやすい」「臭いが漏れにくい」「カラス被害を防げる」という良い点が確認できました。一方で、「光の反射」「夏場の熱さ」「虫の発生」「清掃方法」「収集作業の手間」など、実際に使って初めて分かった課題もあります。

実証実験の目的は、このような問題を見つけることにもあります。今後は、良い点を生かしながら、今回見つかった問題を一つずつ改善し、より使いやすい方法にしていくことが大切だと考えます。

利用者アンケート(途中経過 48%回収 緑西地区自治会)

- ・ 夜間の車運転時に、金属ボックスにライトが反射して運転しづらい場面があった。
- ・ 虫眼鏡のような原理で、金属ボックスにより反射した光で火事にならないか怖かった。
- ・ 個人情報が入ったもののごみ出しに気をつけるようになった。
- ・ 住民以外の方がごみを出しに来ないか心配。
- ・ ステンレス部分が熱く、やけどしそう。
- ・ 昨今は金属盗難事件も多く、金属ボックスが盗難されないか不安。
- ・ 使いやすさ 開閉が楽だった。
- ・ 距離・動線 設置位置の検討もしてほしかった。
- ・ 生活への影響 カラス被害がなくてよい。
- ・ 蓋を開けたとき以外は匂いはほとんどしなかった。
- ・ 内部に虫が湧いていた。
- ・ 周囲に水道がないため、清掃をどうするか不安がある。
- ・ 景観 色は光沢のない方がよいのではないかな。



戸建住宅(第2弾)

ごみカート内蔵金属ごみボックス

山口コメント

実際に第2弾の「ごみカート内蔵金属ごみボックス」を確認して、次のように感じました。

【良かった点】

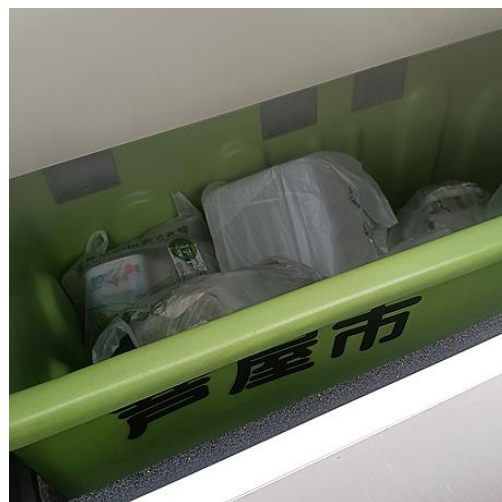
- ・ 全体として見た目は良好です。
- ・ 金属ボックスはクリーム色に塗装されています。周囲の景観と比べると多少目立ちますが、第1弾のステンレス製ボックスと比べると光の反射が少なく、落ち着いた印象です。



- ・ 表面がクリーム色に塗装されているため、第 1 弾のステンレス製ボックスと比べ、夏場の表面温度の上昇も抑えられると考えられます。実際の温度については、今後確認する必要があります。
- ・ ごみがボックスの中に収納されるため、カラスによる被害を防ぐ効果が期待できます。
- ・ ごみの投入口は 2 か所あり、扉を軽く押すだけで簡単に開閉できます。また、投入口の高さも適切で、ごみ袋を入れやすい構造になっています。
- ・ ふたのないごみカートがボックスの内部に設置されています。収集時にはボックスの鍵を開け、カートごと外へ移動できるため、道路から少し離れた場所にも設置できることは大きな利点です。
- ・ また、ごみ袋を一袋ずつ取り出すのではなく、カートごと収集車のところまで移動できるため、第 1 弾と比べて収集作業の負担を軽減できると考えます。
- ・ 現時点では、ボックス周辺で気になる臭いは感じませんでした。
- ・ カートには排水口が設けられているため、内部を水洗いしやすい構造になっています。

【今後確認・検討したい点】

- ・ クリーム色の塗装によって表面温度がどの程度抑えられるのか、特に夏の晴天時に確認する必要があります。
- ・ 長期間使用した場合の臭いや虫の発生についても、引き続き確認する必要があります。
- ・ 清掃する場合には、内部のカートをボックスの外へ出す必要があります。そのため、収集業者だけでなく、日常の管理や清掃を行う自治会・管理組合も予備の鍵を保管するなど、鍵の管理方法をあらかじめ決めておく必要があります。
- ・ カートを外へ出して水洗いする場合、洗浄した水をどこへ流すのかについても確認しておく必要があります。
- ・ 今後は、収集作業に必要な時間や作業負担についても実際に確認し、第 1 弾との違いを比較することが重要です。



総合コメント

第 2 弾の「ごみカート内蔵金属ごみボックス」は、第 1 弾で問題となった光の反射、夏場の表面温度、収集作業の手間などについて、改善が期待できる構造になっていると感じました。特に、「住民は簡単にごみを投入でき、収集する側はカートごと移動できる」という点は、この方式の大きな特徴です。

一方で、実証実験は始まったばかりです。今後、臭い・虫・清掃方法・鍵の管理・夏場の表面温度・収集作業の負担などを継続して確認する必要があります。

第 1 弾と第 2 弾について、単に「どちらが良いか」を判断するのではなく、利用者の使いやすさ、管理する側の負担、収集する側の作業性、景観・衛生面のそれぞれから比較し、今後のより良い収集方法につなげていくことが重要だと考えます。

今後、第 3 弾も含めて、①利用者、②管理者、③収集業者、④周辺環境という同じ物差しで各方式を評価すると、最終的な実証実験のまとめが非常に分かりやすくなると考えます。

3. 実証実験(モニター)の実施状況報告

・ 高層住宅 ごみカート(第1弾)

山口コメント

1. 良かった点

実証開始から約 2 週間の状況では、全体として大きな問題は発生していません。

- ・ カート周辺へのごみの散乱や、カートからごみがあふれる状況は確認されていません。
- ・ ごみ量が多い月曜日には 14 台すべてが満杯になりましたが、収容量の範囲内に収まりました。
- ・ 生ごみの著しい液だれや、カラスによる被害も確認されていません。
- ・ 14 台分のごみを収集車へ投入する作業は約 10 分で、収集時のごみの散乱もありませんでした。
- ・ 利用者からは「24 時間いつでもごみを出せるので便利」、収集作業員からも「手間がかからず便利」との意見がありました。



2. 今後の検討課題

① ルーバーとカートの干渉

ルーバーがカートのポールや蓋に当たり、正常に開閉できない場合があります。その際、重いカートを手で動かす必要があり、高齢者を含む利用者にとって負担となります。

実際には、ルーバーを上げずに直接カートへごみを入れている人がほとんどです。

そのため、まずルーバーを設置する目的を確認し、必要性が低ければ撤去も含めて検討します。必要な場合には、カートと干渉しない構造への改善が必要です。



② カートの蓋同士の干渉

カート同士の間隔が狭いため、蓋が重なって開けにくい場合があります。

蓋を十分に開けられる間隔を確認したうえで、カートが動かないよう、床面への位置表示やストッパーの設置を検討する必要があります。

ただし、間隔を広げると設置できるカート数が減る可能性があります。そのため、「使いやすさ」「必要台数」「設置スペース」「収容量」を合わせて検討する必要があります。



3. 総合コメント

実証開始から約 2 週間の途中経過では、ごみの散乱、あふれ、著しい液だれ、カラス被害などの大きな問題は確認されておらず、ごみカート方式そのものは比較的順調に運用されていると考えます。

一方、ルーバーやカートの配置については、利用者が重いカートを動かさなければならないなど、改善すべき点があります。今後も実証実験を継続し、利用者の使いやすさ、必要なカート数、衛生面、周辺環境への影響、収集作業の負担を確認したうえで、総合的に評価することが重要だと考えます。

この構成なら、第 1 弾を「問題があった」と評価するのではなく、カート方式そのものの評価と、付帯設備であるルーバー・配置の問題を分けて説明できる点が重要です。これは今後、第 2 弾などと比較する際にも有効です。



利用者アンケート(途中経過 39%回収 アステム A・B 棟団地管理組合法人)

- ・ 車両が頻繁に通行するため、事故にならないか怖い。(目かくしのシートも高いため)
- ・ 住民以外の方がごみを出しに来ないか心配。
- ・ 身長の高い方には高さが高い。
- ・ ごみがカートの奥まで入れるのが難しく、手前に偏ってしまっている。
- ・ ごみをカートの奥に押し込む棒あれば便利に感じた、
- ・ 空のカートを探すのが面倒。空・満杯の表示する仕組みを考える必要あり。
- ・ 雨の日に、傘をさしていると片手が塞がっているのでカートの蓋を開けてごみを入れるのは大変。
- ・ 距離・動線日頃の移動経路上にないため不便に感じる。
- ・ すぐにごみを出せず、用事のついでにごみを出すことになり、家の中で匂いがして困った。
- ・ 不燃物場所が移動したが、A 棟の玄関に近く、毎日視線に入るため不満。
- ・ 匂い・衛生面蓋が適切に閉まっていないことがあり、匂いがした。
- ・ 周囲の目かくし(シート)の材質・色・高さは改善が必要。
- ・ ごみカートはもう少し落ち着いた色がよい。

高層住宅 金網ごみカート(第2弾)

1. 良かった点

第 1 弾と同様に、現時点では全体として大きな問題は発生していません。

- ・ カート周辺へのごみの散乱や、ごみが周囲にあふれる状況は、全体としては確認されていません。
- ・ 生ごみの著しい液だれや、カラスによる被害も確認されていません。
- ・ 24 時間いつでもごみを出すことができるため、利用者にとって利便性の高い方式となっています。
- ・ 収集作業についても、カートを利用することで比較的効率よく収集できています。



2. 今後の検討課題

① 景観との調和

- 金網で囲ったごみステーションは、柱や前面の網ドアなどが目立ち、住宅周辺の景観との調和という点では改善が必要だと感じます。
- 将来、長期間使用する設備となる可能性も考え、単にごみを囲うだけではなく、**住宅地の景観に配慮した外観や構造**を検討する必要があります。

② 網ドアの開閉方法

- 前面の網ドアは、網を支えるリング部分の動きが悪く、開けにくく、閉めにくい状態です。また、利用後にきちんと閉めにくいという問題もあります。
- 毎日のごみ出しに使用する設備ですので、高齢者を含め、誰でも軽い力で簡単かつ確実に開閉できる構造への改善が必要です。



③ 出入口の位置とカートの利用の偏り

- 現在、出入口が中央の1か所だけのため、利用者は出入口に近いカートにごみを入れる傾向があります。その結果、一部のカートだけが早く満杯となり、ごみがあふれて蓋が閉まらない状態が発生しています。
- これはカート全体の収容量が不足しているというよりも、出入口の位置によって利用するカートが偏っていることが原因の一つと考えられます。
- 改善方法として、両端にも出入口を設けるなど、すべてのカートを均等に利用しやすい配置を検討する必要があります。

3. 総合コメント

- 第2弾の金網ごみカート方式についても、現時点では、ごみの散乱、著しい液だれ、カラス被害などの大きな問題はなく、ごみを収集・保管する基本的な機能は果たしていると考えます。
- 一方、今回の実証実験によって、景観との調和、網ドアの使いやすさ、出入口の位置によるごみカート利用の偏りという新たな課題が確認されました。
- 特に、一部のカートだけが満杯になる問題は重要です。必要なカート台数だけでなく、「利用者がどこから入り、どのカートにごみを入れるのか」という人の動きまで考えて設備を設計する必要があることが今回の実証実験から分かりました。
- 今後は、利用者の使いやすさ、景観、カートの利用状況、衛生面、収集作業の負担などを引き続き確認し、より使いやすいごみステーションへ改善していくことが重要だと考えます。

中層住宅 ごみカート(第1弾)
からすいけいけ



3. 生ごみ減量ワークショップ～みんなの知恵を集めよう～

1. なぜ今、生ごみ減量なのか

現在、大阪府では焼却施設の老朽化や更新工事などの影響により、一部の焼却施設で処理能力が不足し、ごみ処理に大きな影響が出ています。

このような状況は、大阪府だけの問題ではありません。全国的にごみ処理施設の老朽化が進んでおり、今後は「ごみを減らすこと」がますます重要になります。

生ゴミを絞るだけで税金の節約にも

ごみに中でも「生ごみ」は大きなウェイトを占めています。そこで「生ごみ(ごみ汁)」を減らすために、滝沢さん([ゴミ清掃員](#)でお笑い芸人)が紹介したのが、生ゴミの水分を絞ってから捨てることです。多くの人が実践することで、大きな効果が期待できるといいます。「ちなみに皆が皆絞ってくれば、墨田区では可燃ゴミを2割減らすことができる、多摩地区では皆が両手で絞ってくると3億円使わなくていい税金を節約できるそうです」

また、生ごみは燃やすごみの約3～4割を占めており、水分含有量は生ごみの重量の約80%以上が水分です。水分が多いため焼却時に多くのエネルギーを必要とします。

生ごみを減らすことは、

- ・ ごみ処理費用の削減
- ・ CO₂排出量の削減
- ・ 焼却施設の負担軽減
- ・ 持続可能な地域づくり

につながります。

2. 今回の目的

今回は、「正しい答え」を見つける場ではありません。

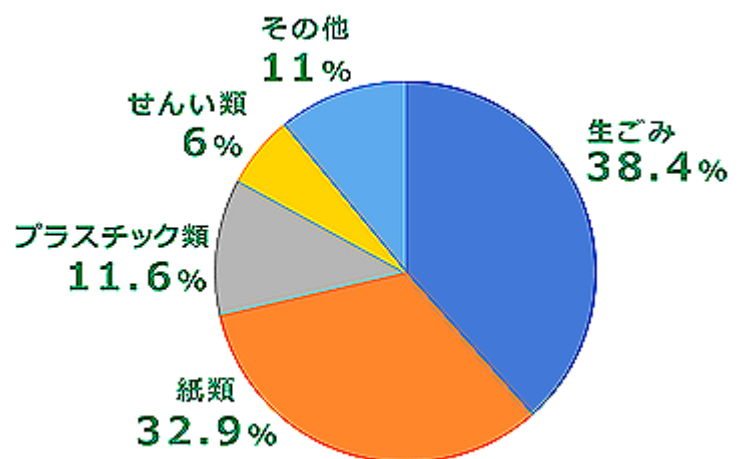
皆さんが日頃行っている工夫やアイデアを持ち寄り、お互いに学び合うことを目的として「みんなの知恵マップ」を作成します。

「こんな方法があるのか」

「私にもできそうだ」

そんな新しい気づきを得ることを目指します。

京都市の燃やすごみの割合 (2022年)



京都市「令和4年度家庭から出る燃やすごみの内訳」より作成

3. ワークショップの進め方

STEP1 カードを書く(10分)。

2人1組になり、配布されたカードに

① 現在実践していること

例

- 水切りをしている
- 食べ切るようにしている
- 買いすぎない 等

を記入して模造紙にはります。



STEP2 今後やってみたいことを二人でアイデアをだして模造紙に貼ります(10分)。

例

- コンポストに挑戦
- 生ごみ処理機を使う
- 冷凍保存を工夫する

STEP3 KJ法で整理(10分)

ファシリテーターが模造紙へ貼りながら、似た内容ごとに整理します。

最後に

「みんなの知恵マップ」

を完成させます。

4. 今回期待する成果

今日の成果は、

「生ごみを減らす方法を一つに決めること」

ではありません。

地域の皆さんの知恵を集め、

「こんな工夫がある」

ということを共有することです。

5. 次回予告

今回集まったアイデアを基に、次回は「私たちが明日からできること」をテーマに、具体的な行動計画を皆さんで考えたいと思います。

私からの提案

「地域の課題は、一人で解決するものではありません。皆さんの経験や工夫を持ち寄ること、新しい解決策が生まれます。今日のワークショップが、その第一歩となれば幸いです。」

資料:ごみ処理費 2 兆 4,489 億円 生ごみを 9 年間 2200 回乾かした市民のデータが示すこと

井出留美

水分が 80%を占める生ごみと他のごみが一緒くたに混ぜられて捨てられている様子(筆者撮影)

私たちが 1 年間にごみ処理へ費やす税金は **2 兆 4,489 億円**。国民 1 人あたりに換算すると 1 万 9,700 円。前年 2023 年度は 2 兆 2,912 億円だったので、一年で 1,577 億円増えたことになる。

税金で燃やされているごみのうち、約 4 割を厨芥類(生ごみ)が占める。生ごみは水分を多く含むので燃えにくく、燃やすのに多くのエネルギーとコストがかかる。

筆者は、生ごみを家庭用生ごみ処理機で乾燥させている。電気代は年間およそ 2,400 円。ハチドリ電力という再生可能エネルギーの会社と契約しているので、石油系のエネルギーは使っていない(2)。

2017 年 6 月から、家庭用生ごみ処理機で生ごみを乾燥させ、乾燥前後の重量を記録してきた。2026 年 8 月、計測回数は 2,200 回に達した。計測期間は約 9 年 2 ヶ月。一般的に生ごみの重さのおよそ 80%は水分である(3)。直近 100 回の減少率は 77.7%で、機種変更した 600 回以降では 2 番目に高い水準となった。

生ごみを乾かすとごみはどれだけ減るのだろうか。

生ごみ乾燥のきっかけとこれまでの経緯

筆者が生ごみ乾燥を始めたのは、埼玉県川口市クリーン推進員向けの講演を依頼されたことがきっかけだ。食品ロスのことは調べていたが、ごみについては詳しくなかった。そこで、自分が出したごみがどれくらいの量なのか、どうすれば減るのかを実際に確認しようと思い、家庭用生ごみ処理機を助成金で半額購入した。約 2 万円のものが 1 万円ぐら이었다。大きさは A4 サイズぐらいで、キッチンと洗面所の間に置いても邪魔にならないくらい。約 600 回計測した時点で高機能のものに機種変更した。100 回ごとの結果は、これまでも記事で報告してきた。

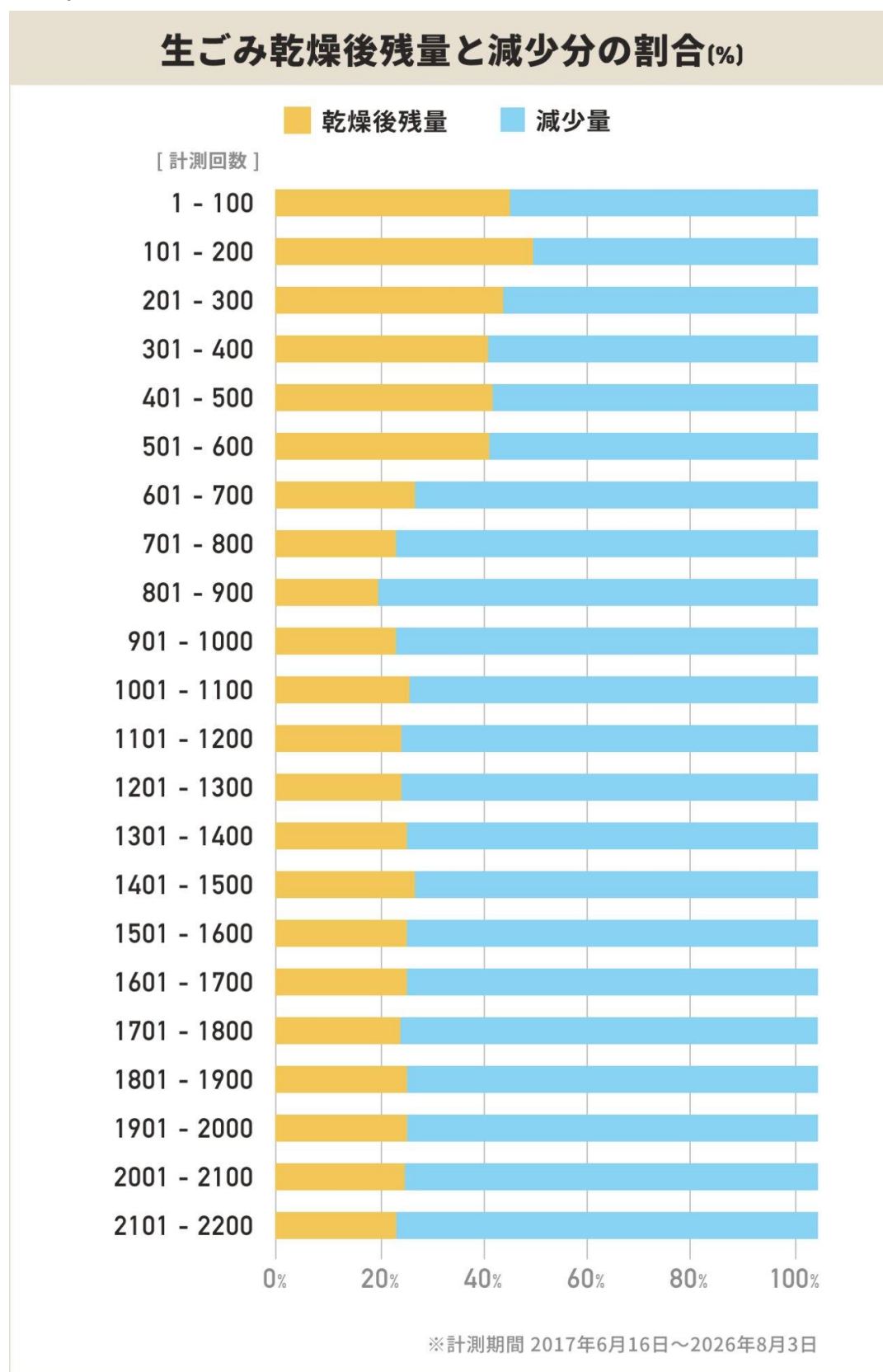


家庭用生ごみ処理機の例。大きさは A4 サイズぐらい(筆者撮影)

2200 回、9 年間のデータが示すもの

直近の 100 回では 77.7%の減少率だった。もとの生ごみの重さから 80%近くも減っている。2,200 回を通算すると、乾燥前は約 814kg だったものが、乾燥後は約 243kg ⇒630g になった。減少した重量は累積で 571kg⇒163g、通算の減少率は 70.1%で

ある。600 回で高機能の機種に変えて以降の 1,600 回に限れば、減少率は 76.6%に上がる。



棒グラフの水色の部分が減った重量を示す。

一年間で1,577億円増えたごみ処理の税金

環境省の令和6年度の調査によれば、市区町村などがごみ処理に要した経費(ごみ処理事業経費)は2兆4,489億円だった。前年度は2兆2,912億円だったので、1年で1,577億円、6.9%増えたことになる。このうち建設改良費は4,402億円から5,561億円へと26.3%増えた。

高度経済成長期に建設されたごみ焼却施設は全国で老朽化の時期を迎えている。とりわけ、ごみ量の多い東京都23区では、清掃工場建て替え費用が大きいのしかかっている。一世帯で使う家庭用生ごみ処理機の電気代は、我が家の場合、年間2,400円程度だ。世帯人数やごみ発生量によって料金は異なるものの、各家庭が生ごみを減らすことで、ごみ処理にかかる税金を、もっと減らせるのではないだろうか。筆者はマンションに住んでいるので乾燥させているが、必ずしも生ごみ処理機を使う必要はない。庭や畑のコンポストに入れるだけでも、全体のごみ量はぐんと減る。

乾かした生ごみはどこへ

乾かした生ごみはどこへ行くのだろうか。

世帯ごとにコンポストに入れることもできるが、自治体が受け入れている例もある。神奈川県川崎市では、家庭から出る生ごみが焼却ごみ量の2割程度を占めることから、生ごみの堆肥化を推進している。家庭で使い切れない生ごみ堆肥は、川崎市内の花壇や農園で受け入れている。電動生ごみ処理機で乾燥させた乾燥生ごみも受け入れの対象だ。

川崎市は、生ごみリサイクル活動をおこなう市民団体に助成金も交付している。

生ごみにする前に、筆者はベジブロス(野菜だし)を作っている。たとえば玉ねぎの皮、枝豆のさやなど、食べられない部分については密閉袋に入れ、冷蔵庫のチルド室に保管しておく。一週間ほどすると袋がいっぱいになるので、深鍋に移し、1リットル弱の水を入れて、30分から1時間ほど煮出すと野菜だしができる。カレーやリゾットなどに使うことができる。先日は、シンガポールライス(チキンライス)を炊き込む時の出汁として使ったところ、香りもよく、美味しいものができた。

ベジブロスを作ったあとの野菜かすは、乾かしてから、コンポストに入れる、もしくはそのまま捨てる。

玉ねぎの皮や野菜の硬い部分からベジブロスを作る(筆者撮影)

日本と世界のごみ事情

日本では、高度経済成長期にごみが増加し、焼却施設が多く建設された。2008年のOECDのデータによると、世界の焼却炉の半分以上が日本にあるとされる。衛生上、仕方がないという意見や、国土面積が狭いからという声を聞く。2024年度(令和6年度)末の時点で、日本のごみ焼却施設は991施設あり、ごみ全体のうち直接焼却される割合は80.8%にのぼる。

だが、日本の国土面積の約4分の1しかない韓国は、生ごみリサイクル率が98%に達している。最初から高かったわけではない。1996年には、生ごみリサイクル率が2.6%しかなかった。韓国政府による生ごみリサイクル義務化や生ごみ埋め立て禁止などが功を奏した。従量課金制、すなわち、ごみを多く出せば出すほど税金を多く負担しなければならない仕組みが、飲食店や市民のモチベーションを上げた。



韓国の生ごみポスト(筆者撮影)

ニューヨーク市では、2023年6月8日に市議会が「ゼロウェイスト法(The Zero Waste Act)」を可決し、2024年10月までに市内の5つの行政区すべてで、生ごみなど有機廃棄物の分別収集が義務化された。

2025年4月1日には罰金の徴収が始まったが、その2週間後、当時のアダムズ市長が30戸以下の建物への罰金を一時停止した。その後、マムダニ市長のもとで2026年1月1日から全面的に再開されている。罰金の額は、8戸以下の建物で25ドルから、大型の建物では100ドルから300ドルである。

筆者も2022年から2025年まで4年連続でニューヨークの食品ロス会議に出席した際、滞在中、オレンジ色のスマートコンポストを実際に使ってみた。スマートフォンのアプリで扉を開閉でき、誰でも生ごみを投入することができる。

9年間続けてわかったこと

9年間続けてみてわかったのは、習慣化の大切さだ。無理ない形でやることが、長く続けられる秘訣だ。当初購入したシンプルな形の家庭用生ごみ処理機は、初心者にとって使いやすかった。

その後、バージョンアップした機種は、炊飯器のような形式で、蓋を開けてスイッチを押すだけで、さらに使いやすさが増した。生ごみの臭いに悩むことはない。ごみ出しの回数も格段に減る。乾かしてコンポストに入れば一石二鳥だ。何より、おすすめしたいポイントは、気持ちがすがすがしくなることだ。